

金山～シゲクラ尾根～雨飾南尾根 山スキー

木下

【日時】 2013年4月13日(土)～14日(日)

【メンバー】 L木下 小暮 佐貫

Cパーティは焼山・金山(真川流域)方面と雨飾方面を繋げる「シャトルパーティ」なのである。時間の制約もあって雨飾までは到達できなかったが、山スキー的な縦走ができて充実、次第に近づいてくる雨飾山がとても印象的でした。

4/13 晴

雨飾荘まで車で入れる情報であったが、山田旅館の先で通行止め。仕方なくスキーを担いで車道を歩く。雨飾荘からスキーをつけるが、林道の雪は少なく所々切れている。薬師尾根方面のパーティに手を振りつつ、1055標高点から右の小尾根に取付く。少々藪があったものの問題なくブナタテ尾根まで登るが、このブナタテ尾根! 所々雪が切れていたり、二重山稜のアップダウンがあったり、沢状の急傾斜でスキーを担いだり(1700m付近)と一筋縄ではなかった。



1900mまで高度上げると日蔭は30cmほどの新雪、濡れたシールに着雪して高下駄のようになる…それでも天気は上々、周囲の展望もよく「行ける所まで行くさ」と楽しんで登る。

3時の交信で他のパーティが「トマハウス」の作成に勤しんでいるのが聞こえるが、こちらの状況は伝えらず、ちょっと寂しい。今日はブナタテ尾根に他に2パーティ、1パーティは中退したが、先行しているパーティは複雑な尾根を上手くファインディングして登っている、天狗原山で挨拶してみると「ランドネ」のご一行でした、先行ありがとうございました。



山頂から金山とのコルに滑降する。シールを付けたままであったが、新雪で快適。金

山沢源頭の雪庇の陰に良い場所を見つけ、今日はここまで。「トマハウス」の作成はタープの大きさに合わせた敷地の設定が重要、だいぶん慣れてきたので約50分で完成。宴会へと突入、でも小暮さんは途中で寝てしまい…お疲れさまでした。

4/14 晴

日本海に低気圧が入ってくるので南風が強い。雪の緩みを待つので7時の出発だ。金山山頂までは一足だが風が強く雪煙も舞う。少し高度を落として樹林の陰でシールを外す。

シゲクラ尾根は南側/アイスバーン、中央/モナカ、北側/新雪 といった感じで根子の目のように変わる雪質に苦戦する。あまりスキーをやらないお二人は結構苦労している、私も久しぶりにシュテムのオンパレードだ。北アルプス、海谷、日本海までの展望と雨飾山が大きい、素晴らしい景色だが雪質が悪いことが惜まれる。



1700m付近より大倉沢の支流に滑り込む、ここは程良いアイスバーンで快適にターンを刻みブナ林の中で一服、風もなく穏やかな良いところであった。1400m付近まで滑降して白倉峰へ登り返す、この区間の稜線は雪庇が崩れて藪が出ていたりするので、このルート取りは正解でしょう。白倉峰より黒沢に滑り込む、ここは少し緩んだバーンで快適、1400mまで滑降。ここから荒菅沢左岸尾根を登り、雨飾山を目指す。

標高1700m付近の急登でスキーを担がなければならない、時間はもうすぐ12時、残念ながらここまでとする。雨飾南稜パーティと思わる人影が見えコールを送る、トランシーバーの不調でこちらからの発信ができていないのだ。仲間が近くにいるのはうれしいもので久しぶりに大きな声出したかなあ～

重たいザラメ雪に変わった左岸尾根を滑降し、1500m付近より荒菅沢をトラバースして南尾根に乗る。ブナの林間を登山道沿い





に滑降して大海川の畔へ、広い河岸を平地滑降して林道に出た。林道を1035標高点まで行き、ここから山田旅館裏へ滑り込むとEパーティと合流、そして旅館到着すると薬師尾根方面のD、Gパーティが下山してきていた、笑顔でご対面。そして同行のお二人と握手、下山してくるパーティを待ちつつ集合地・下里瀬温泉へ向かった。

- 【行程】 4/13 小谷温泉（8：30）-雨飾荘（8：50）-ブナタテ尾根取付（9：30）-天狗原山（15：45）-金山沢源頭（16：05）C1
4/14 C1（7：10）-金山（7：40）-1750m付近（9：10）-大倉沢支流1450m（9：25）-白倉峰（10：20）-黒沢1400m（10：40）-荒菅沢左岸尾根1700m（12：00）-雨飾南尾根1450m（12：30）-小谷温泉（14：10）

【地図】 妙高山 雨飾山



荒菅沢から雨飾山